



平成 27 年 1 月 22 日
海 上 保 安 庁

西之島の火山活動の状況（1 月 21 日観測）

1 月 21 日、羽田航空基地所属航空機（MA722 みずなぎ）により、西之島の火山活動の観測を実施した。

1．噴火の状況

火砕丘にある火口から、1 分間に 5 ～ 6 回の頻度で溶岩片を伴う噴火を繰り返していた。溶岩流は火砕丘から東方向に流出し、新たな陸地が形成されていた。

西之島の火山活動は引き続き活発で、今後も噴火による影響が及ぶおそれがあることから、西之島及び周辺海域（島の中心から半径 6 km の範囲）においては、付近航行船舶へ引き続き航行警報により警戒を呼びかけている。

2．新たに形成された陸地の状況

天候条件が悪く、全体の形状や大きさのデータは取得できなかったものの、前回（12/25）と比較して東方向に拡大していた（図 4 参照）。

同乗した東京工業大学火山流体研究センターの野上健治教授からは、「火砕丘にある火口での噴火や爆発間隔に大きな変化はなく、火砕丘の成長が続いている。昨年 9 月以降続いていた溶岩流の北方向への拡大は停止しているが、東へ溶岩が流出しており、マグマの供給は現在も安定して継続しているものと考えられる。」

とのコメントが得られた。



図1 南東方向から見た西之島（1月21日撮影）

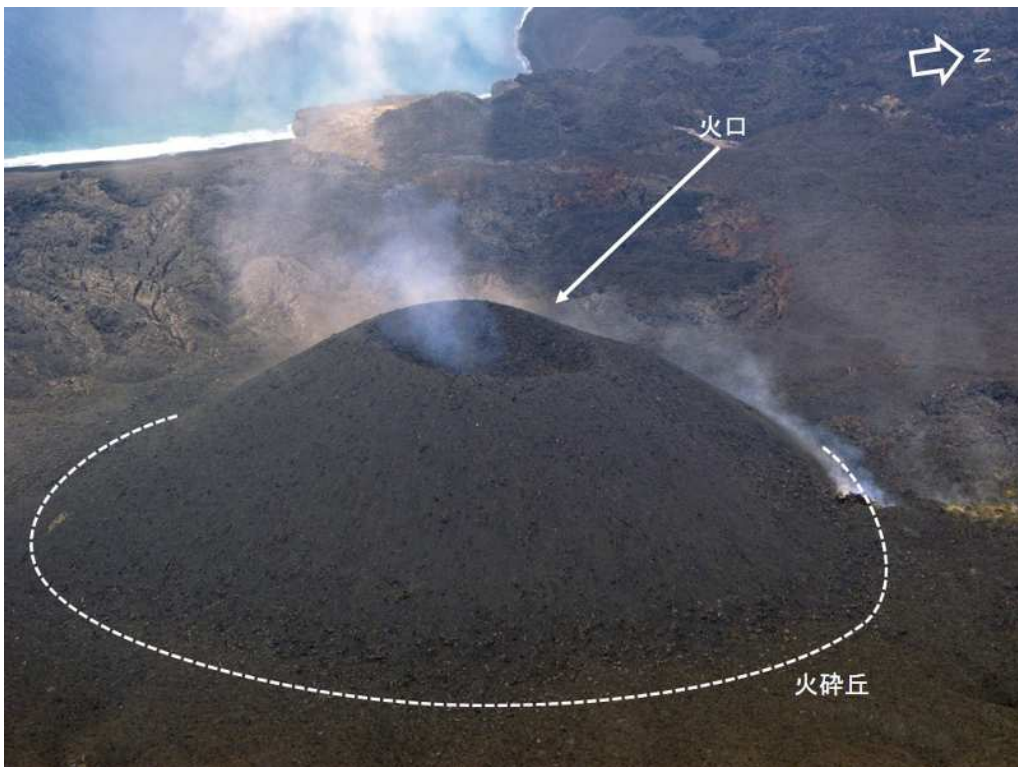


図2 火砕丘の火口から噴煙を噴出（1月21日撮影）

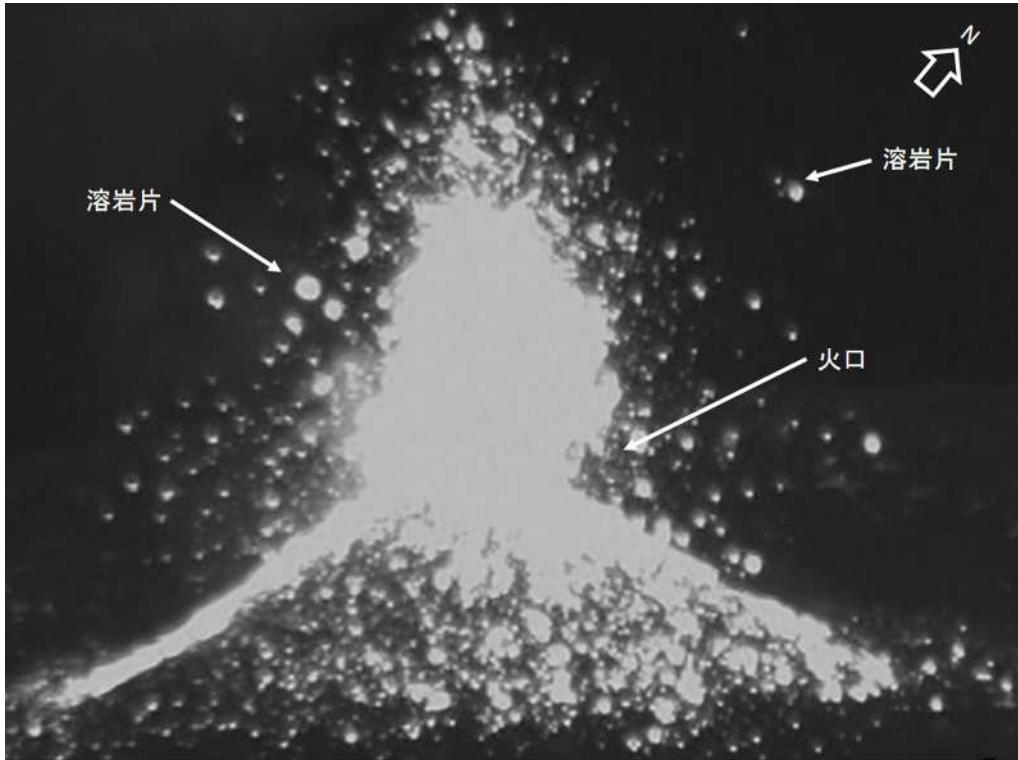


図3 火砕丘の火口から溶岩片を噴出（1月21日撮影）
（熱赤外線画像：白色ほど高温であることを示す。）



図4 溶岩流の東方向への流出により形成された新たな陸地（1月21日撮影）